

1914(大正3)年、首都の玄関口として中央停車場「東京駅」はつくられた。
その南北には赤煉瓦のアーチに支えられた鉄道高架橋が延びていく。
既成市街地を通り、東海道本線・東北本線・中央本線をつないだこの高架鉄道は
外国人技術者に育てられた日本の土木技術者と建築家の手によって築かれた。

偉人伝

the life of a great person

土木
建築

VOL.1

建築

「一八五四年～一九一九年」 辰野 Kingo Tatsuno 金吾 「首都の玄関口 「東京駅」を設計した



日本の近代建築を拓いた建築家

辰野金吾は1854(嘉永7)年、現在の佐賀県唐津市に生まれた。1873(明治6)年、工部大学校(現東京大学工学部)に1期生として入学し、卒業後はイギリスに留学。帰国後、工部大学校で教鞭をとっていた外国人技術者の跡を継いで教授となり、後進の育成に努めた。1902(明治35)年に退官した後は民間の建築家として活躍し、日本銀行本店や奈良ホテルなど日本の近代化を象徴する建物を数多く手掛けた。1903(明治36)年から東京駅の設計に携わり、赤煉瓦に花崗岩(かこうがん)の白いラインが映える駅舎を生み出した。

土木

「一八六七年～一九三二年」 金井 Hikosaburo Kanai 彦三郎 「東京駅と 旧万世橋駅をつなぐ 鉄道高架橋を築いた



私学のダイヤモンドと呼ばれた土木技師

金井彦三郎は1867(慶應3)年、現在の岐阜県に生まれた。西洋技術を教授する私立学校・攻玉社に入学し、土木工学を学ぶ。卒業後は東京府土木課に勤め、京橋や御茶ノ水橋など東京で関東大震災以前につくられた鉄橋のほとんどに携わった。当時、私学卒で技師となることは異例の出世であり、「私学のダイヤモンド」と称されたという。1906(明治39)年には通信省鉄道作業局に転身し、東京駅の基礎工事の設計・工事監督を担当。竣工後は東京駅と旧万世橋駅を結ぶ高架鉄道の建設に従事した。